

十一月十一日、秩父観音巡禮最終の第五回、最終回、即ち結願の日を迎へたり。

ウイキペディアに徴するに、結願とは、日数を定めて神佛に祈願、または修行し、その日数の満つるの謂ひなりと満願といふに同じ。

バスの乗客また、三十四カ所の結願を迎ふる参加者にて占められたり。神佛に祈りたる願ひの叶ひたるには、これを満願成就と稱す。祈願の修行期間は開白、中願、結願の三つに分けられ、結願の最終日は即ち満願なり。

秩父に到着し、法性寺、観音院、菊水寺、水潜寺と巡りぬ。空模様は曇り時々雨との豫報なれど、秩父は曇りにて、折々日輪の雲間より顔を出す程度にて、快きこと此の上なけれど、参拜行程の尋常ならざる寺四か所が最終回に残り、ごつごつの石段を二百段、三百段と登るは一方ならぬ試煉なり。

日頃、氣功あるいはピラティス等にて身體は鍛へてありとはいへども、早朝の雨に濡れたる階段を上りて行くは、甚だしく息切れて、苦しきこと世の常にあらず。

晝食は新蕎麥の「爆弾揚げ」とて、初めて口にするもの出され美味なりき。また最後の寺は長瀨に近く、川下りの場所に案内せられ、いと美しき水流にて、別の機會に訪れたしと思ひぬ。

この數年、不思議の御導きにや、滋賀縣の近江神於ける神事に参加するあり、比叡山延暦寺にては、二十年の籠山行を終へられし宮本祖豐僧師に特別なる御講話を賜り、薬師寺東京別院の薬師如来像胎内結縁寫經や薬師經の寫經納經、つひには十二年に一度の秩父總開帳の年に三十四ヶ所観音巡禮の結願を達するに至れるは、精神面に大いなる貢獻ある「修行」なりけりと感ずる所少なからず。